

病虫害発生予察特殊報第3号

平成17年7月7日
三重県病虫害防除所

本県において、バラハオレタマバエの発生が初めて確認されたので特殊報として発表します。

1 病虫害名 : バラハオレタマバエ
学名 : *Contarinia* sp.

2 発生確認植物名 : バラ

3 発生確認地域 : 県中勢地域

4 発生経過

葉に奇形症状を発生させる害虫が県中勢地域のバラ施設栽培圃場において発生しているとの情報が病虫害防除所に寄せられました。このため、平成17年7月1日に調査したところ、新葉が折り畳まれて奇形化している葉を確認し、葉脈に沿って双翅目と思われる幼虫が加害していました。標本を独立行政法人産業技術総合研究所生物機能工学研究部門の徳田誠博士に同定の依頼をしたところ、ハエ目タマバエ科のバラハオレタマバエ *Contarinia* sp. と同定されました。

確認された圃場では6、7年前から発生していたとのことですが、周辺圃場での発生は確認されておりません。

本種は、平成10年(1998年)から青森県、岩手県、宮城県、静岡県、奈良県、広島県、山口県、香川県、福岡県、佐賀県、大分県の土耕栽培施設で確認されています。

なお、本種の分類学的位置づけは確定されておらず、侵入種か、土着種が害虫化したのかは不明です。

5 被害・生態

河村ほか(2004)によって調査された詳細な報告があり、その概要は次のとおりです。

(1) 被害

バラの新葉が中肋部で折れ曲がって奇形化し、商品価値がなくなります。蕾が加害された場合は変形して奇形花となります。

(2) 生態

折れ曲がった葉を開くと、内部に体長数mmの白色～黄色ウジ状の多数の幼虫が見られます。老熟幼虫は葉から落下して土中で蛹化します。

5～8月上旬にかけて4～7回、9月中旬～10月にかけて2～3回の発生があります。盛夏期には高温、乾燥により発生が認められなくなりますが、夏が冷涼多雨の年には発生が途切れない場合もあります。

6 防除対策

現在、バラにおける本種に対する登録薬剤はありません。

7 バラハオレタマバエの加害状況



幼虫（バラ新葉への寄生）

バラ旧葉の被害葉

8 謝辞

本種を同定して頂きました、独立行政法人産業技術総合研究所生物機能工学研究部門の徳田誠博士に厚く御礼申し上げます。

9 参考資料

河村・和泉・岩本（2004）バラハオレタマバエの発生と防除. 植物防疫, 58(9) : 394-396